

今、授業改革が始まる！

平成29年度 土佐市立蓮池小学校版

国語科 における 資質・能力の育成を目指した 授業づくりのポイント

資質・能力を育む「深い学び」を明確にする教材分析

第3学年 単元名「発見！筆者のせつめいのくふう」
教材名「すがたをかえる大豆」

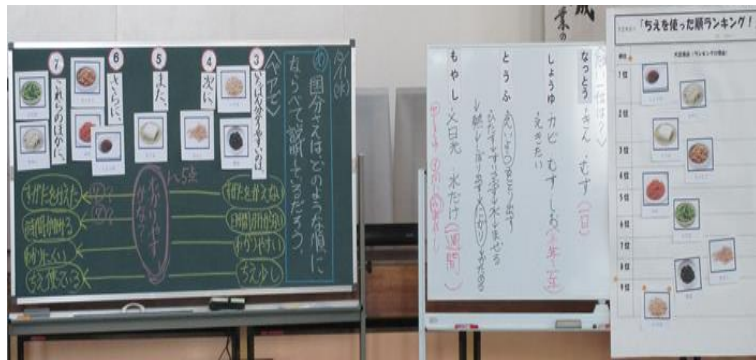
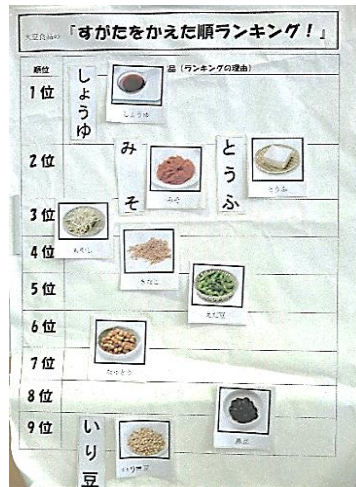
- 本教材は、大豆やその加工食品について書かれたもので、児童にも身近なものである。ただ、大豆の加工食品は、見ただけでは原料が大豆とは分からないものも多く、児童に新鮮な驚きをもたらすだろう。自分の食生活や日本の食文化を見つめ直すことにつながり、食育という観点からも貴重な題材である。
- 構成としては、大豆をおいしく食べるための工夫を5つの例で説明している典型的な解説型の文章であり、文章全体は「初め」「中」「終わり」の組み立てになっている。「中」の段落は並列の関係にあり、各段落の最初の文が、説明の中心になる文である。また、各事例の並び方や写真との対応など、さまざまな点で、読者に内容を分かりやすく伝えるための説明の工夫がみられる
- 本教材の学習で子供たちに働かしてもらいたい言葉による見方・考え方は「段落の関係性を考え自分なりに意味付けること」と捉えた。具体的には、筆者の説明の工夫を考え対話するなかで、段落相互の関係（接続詞の役割や事例の順序性）について、より深い学びを期待したい。

よりよき学びを実感させる授業展開の工夫 (本時6/7)

本校研究テーマの具現化として「比較」「選択」の場や「自己決定」の場を意図的に設けることで、児童の主体的・対話的な態度を引き出す授業展開を工夫した。具体的には学習の中に「自分たちのランキング作り」の活動を取り入れ、文章を詳しく読む必然性と、筆者の述べ方の工夫に気付くような思考の流れを促すことを意図した。

<見方・考え方を働かせる言語活動の場>

- ①事例を分類する活動を通して、筆者が工夫を視点を段落構成していることに気づかせる。
- ②大豆食品の「すがたをかえた順ランキング」を考える言語活動を行い、各段落の読解を深める。
- ③「一番ちえを使っているのはどの食品だろう」の発問で自己決定を迫り、児童の主体的な思考を促すところからはじめる。次に、「では、国分さん（筆者）は食品をどのような順にならべて説明しているだろう。」の中心課題について話し合うことで、筆者の事例のあげ方の工夫に気付かせる。【検証授業とした本時（6/7時間）】
- ④ 次の（作文）単元へつなげる言語活動として、他の大豆の活用例を一つの段落として短い文章に書き表す。



【本時の板書】→

発見！筆者のせつめいのくふう ～「すがたをかえる大豆」(7時間)～

1. 「すがたをかえる大豆」って!? ☆
 - 「はじめ」「なか」「おわり」に分けよう!
 - 「なか」にはどんな大豆食品がでてくるかな?

2. 「すがたをかえる大豆」を読もう。☆☆☆☆☆

- 「はじめ」「おわり」には、どんなことが書いてあるのだろう。
- 国分さんは、くふうごとに分けて説明している。
- よく読んで「すがたをかえた順」と「一番ちえを使っている順」のランキングを作ろう。【本時6/7】
- 国分さんは、わかりやすい順に説明している。

大豆は、どうやってすがたをかえているのかな？

学習したことを使って書いてみよう！

3. なりきり自己しょうかい作文を書こう。☆

- 「すがたをかえるお米」のれいとして『おもちしょうかい作文』を書こう。

「すがたをかえる大豆」を読んで筆者のせつめいのくふうを発見しよう！

資質・能力の変容をどうとらえるか (本時6/7)

☆段落の関係性を考え意味付けることで、よりよき学びを実感する！

～子供を見取る場とその実際～

【本時での発言から】

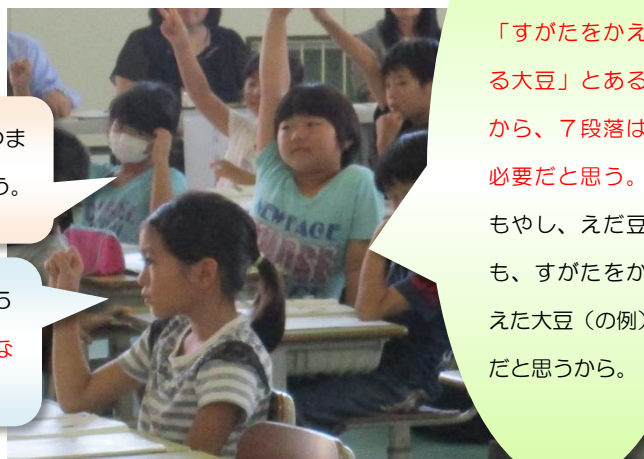
ほくは、大豆の形や色がわかりやすい順。(つまり) 形や色が残っている順になっていると思う。

いり豆と黒豆(3段落)は作り方が簡単で、5段落からちょっと難しくなる。作り方の簡単な順じゃないかな。

【A児による本時の振り返りから】

○ほくは国分さんの順番は、後ろに行くにつれて(6段落までは) どんどんくふうしている順になると思います。7段落は他の(段落)とちがっています。他の段落はできた物のすがたをかえているけど、7段落の植物は、できた時にはもうすがたがかわっているということが最大のちがいだと思います。国分さんの分け方(事例の挙げ方)は5点(満点)です。わけは、つなぎ言葉を使っていたからです。今日の勉強が人生、最高です。

7段落は題名に「すがたをかえる大豆」とあるから、7段落は必要だと思う。もやし、えだ豆も、すがたをかえた大豆(の例)だと思うから。



【本時での学習内容を活用し、次の時間にB児が書いた「なりきり作文」】

すがたをかえるお米

わたしは、もち米です。

わたしは、きねでつくとう工夫で おもちに、すがたをかえます。

まず、わたしはあらわれ、水に一ぱんつかります。そのうちに水を たっぷりすみます。

次に、わたしは水気をたくさんとられます。そして、何分かむされます。むすと、わた したちから「ねばり」がたくさん出てきます。

さらに、うすに入れられて重いきねでグイグイつぶされます。つぶすとおもちに近く なってきます。米の形じゃなくなり、なかまたちもみえなくなりません。

また、きねでつかれます。あいどりや、同じようにつかれることを何十かいもされて、 ねばりが強くなります。さらに丸められ、おけしゅうのようにつく、こなをつけられます。

最後に、きなこやだいこんおろしをまぶされます。

このように、いろいろな旅をして人間に食べられるのです。

